

平成 30 年度プロジェクト研究実績報告書

【研究課題名】	「佐原三菱館」の歴史に関する調査 ～「佐原三菱館」が示唆する、戦時下で実施された三菱銀行と第百銀行の吸収合併における背景と経緯に関する論考整理～												
【研究代表者】	堂下 浩（東京情報大学・教授）												
【研究分担者】	井関 文一（東京情報大学・教授） 長谷川 純平（東京情報大学・研究生）												
【研究の目的】	<p>佐原の街並みにたたずむ「佐原三菱館」は川崎銀行佐原支店の建物として大正 3 年に建てられた。昭和 64 年に三菱銀行から香取市に寄贈され、千葉県の有形文化財にも指定された貴重な建造物である。本研究では文献調査に基づき実施された専門家によるパネルディスカッションや、同館ゆかりの関係者への面談調査を通して、同館の歴史や明治時代から千葉の地域経済に大きな影響を与えてきた川崎銀行と、同行を中核機関として明治・大正期に発展した金融財閥であった川崎財閥の栄華をつまびらかにすることを本研究の目的とする。</p> <p>さらに本研究では、戦前期に都市銀行として日本全国で隆盛を誇った第百銀行（川崎銀行の後身）が太平洋戦争中に三菱銀行に吸収された時代背景についても議論を深める。三菱銀行による第百銀行の吸収合併という事例が象徴するように、統制経済が強化された戦時下、国策で消滅した地域に根差した銀行が千葉県内でも多く見られる。当時の金融統制は戦後の“護送船団行政”として受け継がれ、高度経済成長期の産業経済、さらには香取を含めた地域経済に深く影響を及ぼした。「佐原三菱館」の歴史を通して、こうした戦後日本の産業経済と地域経済の“光と影”の部分を見つめ直すことも本研究の目的とする。</p>												
【研究報告】	<p>本研究の前半部分で実施された文献調査や「佐原三菱館」ゆかりの関係者へ面談調査から、戦時統制下で三菱銀行に吸収された川崎銀行の歴史を辿りながら、香取の地域経済が歩んだ道程を金融という側面から捉え直すために、市民や研究者を対象にしたパネルディスカッションを開催した。パネルディスカッションは「東京情報大学・香取市 地域連携フォーラム 2019（サブタイトル：佐原三菱館が語る銀行統制の時代 ～香取で隆盛を誇った旧川崎銀行を辿る～）」として以下の通り開催された。</p> <p>《開催概要》</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">①</td> <td style="width: 15%;">主 催</td> <td>東京情報大学及び香取市</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>日 時</td> <td>平成 31 年 1 月 24 日（木）13：30～15：30</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>場 所</td> <td>香取市佐原中央公民館 大会議室</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>講 師</td> <td>パネリスト：川崎定徳株式会社 川崎 善保 監査役 パネリスト：茨城大学 進藤 寛 名誉教授 司 会：東京情報大学総合情報学部 堂下 浩 教授</td> </tr> </table> <p>当日のパネルディスカッションでは、パネリストとして戦前の貯蓄銀行や地域金融について造詣の深い茨城大学の進藤寛名誉教授と、同館の歴史に詳しい川崎定徳株式会社の川崎善保監</p>	①	主 催	東京情報大学及び香取市	②	日 時	平成 31 年 1 月 24 日（木）13：30～15：30	③	場 所	香取市佐原中央公民館 大会議室	④	講 師	パネリスト：川崎定徳株式会社 川崎 善保 監査役 パネリスト：茨城大学 進藤 寛 名誉教授 司 会：東京情報大学総合情報学部 堂下 浩 教授
①	主 催	東京情報大学及び香取市											
②	日 時	平成 31 年 1 月 24 日（木）13：30～15：30											
③	場 所	香取市佐原中央公民館 大会議室											
④	講 師	パネリスト：川崎定徳株式会社 川崎 善保 監査役 パネリスト：茨城大学 進藤 寛 名誉教授 司 会：東京情報大学総合情報学部 堂下 浩 教授											

査役を招聘した上で、川崎財閥の歴史、そして川崎銀行が佐原に荘厳な支店を建造した背景や、日中・太平洋戦争下における銀行統制が香取地域の経済に及ぼした影響を討論するだけでなく、聴講者からの質問や意見も取り入れながら本研究の知見を深めた。

【成果の公表】

開催されたパネルディスカッションは新規性や学術的価値が高い内容であった。このため、当日の内容を整理した上で、その詳細を本学の紀要又は関連する学会等で発表したい。

【総評】

上記のパネルディスカッション及び本年度の本研究に対して香取市より以下の講評を得た。以下の講評をもって本調査に対する香取市からの総評とする。

香取市は貴学との連携を通して、市民協働によるまちづくりの推進を図るため、香取市をフィールドとして持続可能な地域・市民一体型のまちづくりの研究の専門家である大学関係者との市民交流を実施し、市を広く PR するための効果的な情報「プロジェクト香取」として大学の研究成果を地域振興に役立てることができ感謝しております。

これまでも貴学のご尽力によりいくつかの連携事業を実現することができましたが、この度、その研究成果として、銀行統制の時代を題材に、戦前の本市で隆盛を誇った旧川崎銀行の歴史をたどる講演とパネルディスカッションを行い、約 150 人の方々が参加していただきました。堂下教授・関係職員及びゼミの学生の皆様、誠にありがとうございました。

今後において、かつて醸造業や利根川水運の物流拠点として栄えた地域の経済を支えた金融機能の歴史史実を今後どのように現代に生かし、地域社会の魅力を高めるための活動に寄与されるか期待しております。

上記講評は以下 URL にて本学ホームページで公開される（掲載日：2019 年 4 月 17 日）。

URL: http://www.tuis.ac.jp/topics/forum2018_1/

以上